

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|--------------------------------|
| 事業名 | 遊休耕地を活用した牧草生産による畜産振興事業 |
| 事業主体 (連絡先) | 木曾町役場 三岳支所 (0264-46-2001) |
| 事業区分 | (6)産業振興、雇用拡大 イ農業の振興と農山村づくり |
| 事業タイプ | ハード |
| 総事業費 | 5,108,400円 (うち支援金: 3,405,000円) |

事業内容

三岳地域の遊休耕地を借り受け、牧草生産を行った。その際、刈り取り・乾燥後の牧草を集めて固めるロールベアラー、それを梱包するラップマシンを購入した。

作業は農事組合法人 鹿ノ瀬草地利用組合が担った。(当該組合は地元畜産家を中心に、御嶽山国有林の一部を借り受け、乾草生産を行っている)

【実施した事業の流れ】

- 4月～5月 生産箇所の募集・選定 (0.5ha)
 - 6月～7月 種子・肥料散布 (牧草生育期間)
 - 9月24日 機械納品
 - 8月～10月 刈り取り・乾燥・ラッピング
 - 12月 事業振り返り (反省、来年度への課題確認)
- 事業完了



【遊休耕地での採草作業】

【目標・ねらい】

- ①遊休耕地の削減
- ②畜産振興 (飼料自給率の向上)
- ③里山の景観保全
- ④住民協働の意識醸成

事業効果

- ①生産面積は0.5ha (当初目標 1ha) に留まったものの、遊休耕地の解消を目指す新たなモデルを示すことができた。
- ②畜産家の飼料自給率向上にも若干ながら寄与し、意欲も向上した。集落内の遊休耕地を集約した上で、規模拡大を目指す畜産家へ貸し出す案も出ている。
- ③④「木曾町 人・農地プラン」において、三岳地域では新たな中心経営体 (農地の担い手) として、鹿ノ瀬草地利用組合が記載され、今後の事業拡大に期待が寄せられている。今後も地域で農地を活かし、それが景観整備に活かされる好循環を目指していきたい。

※自己評価 【B】

【理由】
機械購入や牧草生産は当初計画どおり進めることができた。一方で、生産面積は新型コロナの影響により、募集や調整に苦慮したため、上記の評価となった。

今後の取り組み

今後、事業拡大の仕組みと担い手強化が課題となる。

○事業拡大について

三岳地域は山間地の農地が多いため、条件の良い守るべき農地とそれ以外の農地を分ける必要がある。好適農地は当事業の対象として地権者に協力を求め、生産面積の拡大を目指す。山裾などの条件不利農地は林地化も含めて検討し、作業の効率性も併せて目指していく。

○担い手強化について

鹿ノ瀬草地利用組合の組織形態である農事組合法人は、事業内容に制約があるため、町も参画する新たな組織 (合同会社などの法人形態) を検討し、より強固な担い手育成を目指す。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある